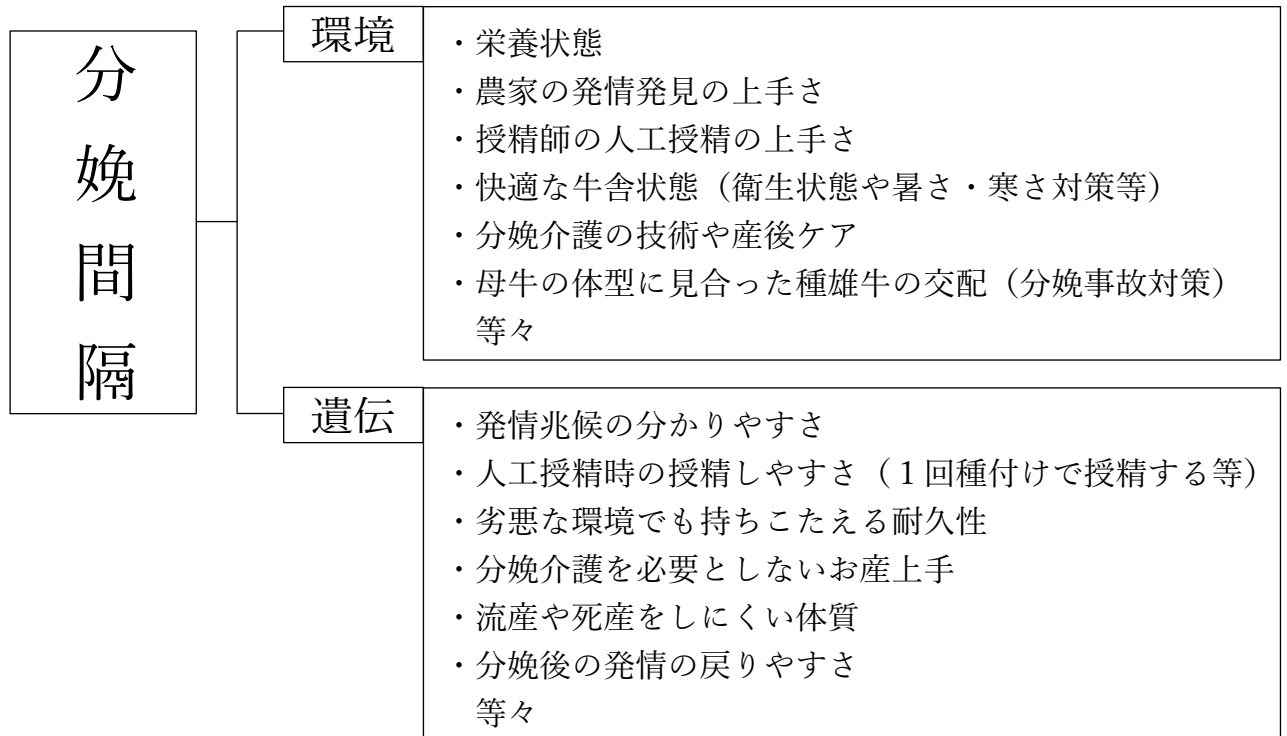


## ○分娩間隔の育種価について

### 1. 分娩間隔の育種価とは

分娩間隔の実数値を元に算出された育種価になります。

分娩間隔は環境による影響が大きいとされますが、数値に表れない遺伝的な要因もあると考えられています。



### 2. 分娩間隔の遺伝率について

遺伝率とは、簡単に言うとある特徴がどれくらい遺伝によるものかを比率で表したものです。集団の大きさで変わるものでもあるので、鹿児島県での育種価分析結果による遺伝率が他県と同じとは限りません。以下には分かりやすく%で表したものを載せています。

※『親から子へ遺伝する確率』ではありません

#### ①枝肉6形質の遺伝率（令和7年12月時点）

	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	推定歩留	脂肪交雑
遺伝率	47%	55%	41%	58%	62%	59%

#### ②MUF Aの遺伝率（令和7年12月時点）

	MUF A
遺伝率	48%

#### ③分娩間隔の遺伝率（令和7年10月時点）

	分娩間隔
遺伝率	6%

### 3. 分娩間隔の育種価の考え方（活用法）について

一見すると遺伝率が低いのであれば、育種価を活用しても効果が薄いのではないかと思われるかもしれませんが、しかし逆に考えると、数値では表せない発情兆候の分かりやすさや授精しやすさが分娩間隔の育種価を活用することで選抜・改良することができるかもしれません。将来そういった数値に表れない能力を指標として示す事が可能となるまでは、現状利用できる分娩間隔の育種価を有効活用して繁殖能力の総合的な改良をしていきたいと考えています。

活用例：母牛A 平均分娩間隔395日 分娩間隔の育種価A

農家コメント

「牛の確認をおろそかにして発情を見逃したりするけど、毎回1回目の人工授精で受胎するよ」

母牛B 平均分娩間隔395日 分娩間隔の育種価C

農家コメント

「牛の確認もしっかりして発情は見逃さないけど、発情が分かりにくく、毎回3回以上の人工授精をしてるよ」

この場合、平均分娩間隔の数値だけではどちらの母牛の繁殖能力が良いか判断できません。

農家コメントを聞かないと分からない繁殖能力を選抜・改良するためにも、平均分娩間隔の数値が短くかつ育種価も良いものを選んで残していき、そういった家系を大事にしていくことが良い活用法となります。